

2008年度受託研究概要報告

# 「神戸家具」の伝統技術を用いた、サステナブルデザインの可能性についての研究

研究メンバー

佐野浩三 デザイン学部プロダクトデザイン学科教授

委託者

株式会社永田良介商店

1 研究の経緯

当受託研究の委託者である1872（明治5）年創業の「㈱永田良介商店」は、現代まで続く洋家具店としては日本最古級であり、店舗の歴史が日本の洋家具の歴史ともいえる「神戸家具」の老舗である。江戸から明治への開港期に誕生した「神戸家具」産業は横浜と並んで日本の洋家具産業の黎明期を支えてきた。西日本の著名な洋風建築の多くに関わり、顧客は戦前からの富裕層、商品はクラシック調の意匠が主であるため「嗜好性の強い贅沢な家具」という認識が一般的には強い。

「神戸家具」は今日でも、明治後期に定着した技術を継承し、オーダーメイドを中心としたクラシック調の家具を生産している希有な産業である。無垢木材・ほぞ組・膠接着・ワックス仕上げを基本とする自然素材に精通した加工技術は、材に対する負荷が少ないため長期にわたって修理が可能な上、基本的に「モデルの更新」という概念がないため、スタイリングを長期間保つことが可能である。今日求め

られているロングライフデザイン、エコデザインの典型例として一つの完成形を成していると言えるであろう。

しかし、現代ではクラシック調を求める顧客層は非常に限られており、ライフスタイルの多様化に対応した展開が必要になってきている。そこで、数年前から神戸芸術工科大学研究所プロジェクトや科学研究費の補助を受けて、歴史的な調査と平行して伝統技術を活かした「神戸家具」の可能性について基礎的な研究を進めてきた。今回の受託研究は、基礎研究の成果をさらに進めて、商品化を視野に入れた実践的なケーススタディを目的としている。

2 プロジェクト内容

プロジェクトの骨子は、「神戸家具」の伝統技術を基本とし、対人・対自然環境を考慮すると共に販売後のメンテナンスやアフターサービスを視野に入れ、物理的にも付加価値的にもロングライフデザインを実現することである。永田良介商店はクラシックスタイルと一線を画したデザインも提案しているが、余りにもブランドイメージが定着しているため、これまでの範疇を超えた広がりには至っていない。

そこで、今回のプロジェクトでは、ブランドイメージを損なうこと無く、新たな拡張を図る効果的な手



写真3 試作B第三次モデル



写真4 試作B構造

法として、大学が調整役となり相乗効果を狙ったコラボレーションを計画した。コラボレーションパートナーの「㈱イデー」は現代の家具業界において、常に新しいことにチャレンジするイノベーションリーダーである。また同時に文化的な側面でも情報発信力を持ったオピニオンリーダー的な役割を果たしている「ライフスタイル提案型」の日本を代表する家具メーカーである。

3 試作

試作A（第二次モデル）は永田の伝統的な構造を積極的に見せたモデルである。角度を持った強固なほぞ組により、隅木や補助金具も不要である（写真1、2）。試作B（第三次モデル）は、華のある意匠で「日本の家具」を意識した（写真3、4）。伝統的技法を用いているが現代的なイメージで角度を持たせないほぞ組構造を採用した。試作C（CGモデル）は、個人の体型を測定して製作するイージーチェア2案（図1、2 CG作成小林和行）。



写真1 試作A第二次モデル



写真2 試作A詳細



図1 試作Cオーダー 1CG案



図2 試作Cオーダー 2 CG案